

■安積中学校■安積高等学校在京同窓生

# 東京桑野会会報

●1993年4月1日発行●発行・編集人 澤田 悌●発行所 東京桑野会事務局 〒160 東京都新宿区新宿1-3-8 YKB新宿御苑804



So.



15

佐藤昭一氏・画 (56期)



ご挨拶

東京桑野会会長 澤田悌

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何んらかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

会員の皆さんには、平成5年を迎えられて一層お元気にお過しのことと拝察ご同慶の至りに存じます。今は所謂バブル崩壊の経済不況期に在り、その影響下、何かとご多忙のこととお察しいたしております。しかし、この不況も経済界の努力と金融、財政両面からの対策浸透により、いずれ好転すると期待されます。安積で鍛えられた皆さんのご隆昌をお祈りいたします。

この東京桑野会会報も、関係役員方のご努力のお陰で第15号の発行を見ました。誌上でご案内の通

り来る4月16日に恒例の会員総会を目白の椿山荘において盛大に開催する予定です。今回は役員改選の時期に当たりますので、総会の決定を得て役員陣も一段と強力なものとして、会の一層の充実発展を期したいと思っております。

総会においては年1回のことでもあり、懐かしの母校と郷里を偲び、大いに語り、飲みかつ唱って楽しい一夜を過ごしたいと思っております。どうぞ多数の会員のご出席をお待ちいたしております。

# 東京桑野会定期総会開催のお知らせ

東京桑野会の一年のメインイベントである、定期総会と会員の懇親会を開催いたします。

会報の一面にもありますように、同窓生の親睦を図り、仲良く楽しい会員の頼りになるような会にするためにも、できるだけ多くの方々に参加されますようご案内申し上げます。

- 期日 1993年(平成5年)4月16日(金)
- 時間 午後5時—受付開始  
午後6時—総会  
午後6時30分—懇親会
- 議題 1. 会務報告の件  
2. 予算決算の件  
3. 役員改選の件  
4. その他
- 場所 目白 椿山荘  
東京都文京区関口2-10-8 (Tel 03-3943-1111)  
JR 目白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋下車
- 会費 懇親会費 8,000円(学生 3,000円)  
1993年度会費 2,000円

なお、当日出席出来ない方は、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みをお願いします。

◇準備の都合もありますので、出欠の返事を同封の葉書で3月末日までにご返送下さいませよう申し上げます。

◇また、連絡もれもあるかと思われまますので、恩師やお知り合いの方もお誘い合わせのうえ、多数のご出席をお願いいたします。

◇昨年度は、1992年4月16日に開催され、200名を越える参加者がありました。年毎に盛会になりつつあります。25期の後藤憲平氏(99歳)も出席され、100期生と壇上で謳歌した。幹事の方々も新しく各期毎に増えました。前回は上回る参加を期待します。

◇年度会費2,000円は、会の運営のために是非必要なもので、ご欠席の方は同封の振込用紙でお振込み願います。

## 会員動向

### ■受賞

●本田 安次氏(36期、元文化財保護審議会専門委員)は、「柳田賞」を受賞されました。

### ■著書

●島田守家氏(51期)著

「暴風・台風びっくり小辞典」一日には見えないスーパー・パワー

・発行所講談社ブルーバックス

・発行日1992年6月20日

「私はここに暴風災害に関する事例を集め、目には見えぬ風が、いかに人間の生活にインパクトを与えているかを知っていただくとともに、たえず動いている大気のゆらぎである風を通じて、自然現象としての気象を知っていただきたいと願って本書を企画した。」

(本書「まえがき」より)

安積の卒業生では初の「ブルーバックス」です。同氏から気象学者らしいユニークな「首都・郡山移転論」の寄稿をいただきました。

### ■異動

●古川清氏(63期)は、1990年8月以来ルーマニア大使の大任を果たされこの度、帰国されました(1993年2月1日付)。

●佐藤一男氏(65期)は、1989年9月以来日本原子力研究所理事の要職に就かれておりましたが、この度退職されました(1993年1月31日付)。

FLJITA KANKO  
竹花則栄(55期卒)  
CHINZAN-SO  
**椿山荘**  
東京都文京区関口2-10-8  
TEL 03-3943-1101

**味**  
お食事  
伝統の味に季節の彩りをそえて

- 料亭・錦水
- 松阪牛和風料理・離れ家
- レストラン・カメラリア


**宴**  
ご宴会  
華やかな集いに17の大小宴会場

- 2,500名様までのパーティ、国際会議
- ファッションショーなどのお集まりに
- 最新機能の音響装置。

**寿**  
ご婚礼  
住き日に永遠の幸せを誓う

- 800名様までの日本料理、フランス料理、着席・披露宴。
- 庭園での記念写真も随時お撮りいただけます。
- チャペルでの挙式も承ります。

**人が季節が、集います。**



## 母校便り

(安積高校新聞第140号および本校提供の資料による)

さて、困った。本校に在校生の活躍ぶりのデータの送付を願ったところ、「賞状伝達内容」として、運動系・文化系あわせてファックス合計12枚。表彰事項は186件におよんだ。これは12月16日までのデータであるので、本年度末にはさらに増える見込である。この中から、取捨選択して掲載できる勇気は私には全くない。

順不同

弓道、バレーボール、野球、ソフトボール、陸上、剣道、バスケットボール、軟・硬テニス、バドミントン、体操、柔道、卓球、水泳、放送、写真、将棋、囲碁、書道、演劇、読書感想文、校内行事ながら紫旗祭関連。

ピックアップ漏れがあったら失礼。よく頑張っていると思う。

その他、福島地方紙に掲載事項2件。  
★山見修平君、「日本人として」と題した国際交流関連論文が県の「朝河貫一賞」を受賞。(昨年度第二の朝河博士、野口博士を育てようと設置された)。  
★剣道団体、宿敵福島高校を倒し県大会優勝。全国大会へ。

ただ、気になる安積高校新聞の見出し。「センター試験平均点過去最低」。昨年も同じような内容の見出しであった。大学入試に関して様々な議論はあると思うが、体力・気力が充実してがんばれる時期はそうあるものではない。いろいろ考えずに「がむしゃらに」頑張れ。(85期 村上)

## 安積魂

曾根正 (43期)

43期生、B組は級長内藤君、副級長鎌田君により50名の悪童連中が、がちり統率されていた。3学年の真冬のこと、当時教室の暖房は大きな木の四角の火鉢二個の炭火であった。

英語のT先生は火鉢に片脚のをせ、片手を火にかざしての授業であった。

誰からともなく“あの態度はけしからん”との発言があり、やめさせる方策について相談した結果、唐辛子を火鉢に埋めることになった。

農家のA君が持って来た。準備完了。全員でやった事にすることで決行した。

T先生の授業前に灰をほった。1、2本で好いと思ったが、折角持ってきたのだから全部を埋めると言う事になった。これが大変なことになった。

T先生は何時ものとおりに窓側の火鉢に片脚のをせ始めた。全員がまだか、まだかと時計を見ながら待っている。先生くしゃみを始めた。くしゃん、くしゃん、大成功。皆おかしいのをがまんしている。誰かが吹き出した。とたんに全員がどっと来た。

先生一言も言わず、窓をあけて本を読んでいる。そのうちに十数本の唐辛子がくすぶりだした。煙が部屋中に広がった。今度はこちらがくしゃみ、目が痛くなる、涙が出る、これが天罰か。

学校からの罰則は一週間炭火を支給しないとの事。

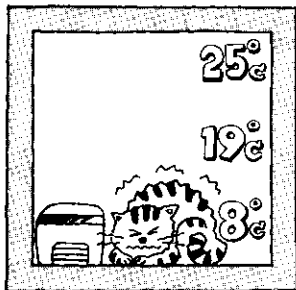
どうするか、悪童連中の相談。授業

時間中窓を全開することにした。我々は衣服を重ね、手袋をして。これには先生方悲鳴をあげ、翌日から炭火が支給された。犯人探しはなかった。T先生の態度は改められた。

4学年の4月、登校、下校の際ゲートルを着用することについて全校生徒の同意を求められた。当時は先の拡がったセーラーズボンが流行しており、B組の相当数が着用していた。ゲートルを巻くと太くなり、格好が悪くなると言うことで、反対することになった。

新しく若松の歩兵第29連隊から配属になった少佐殿(少佐は本校と福中だけ)、軍事教練の際、長時間不動の姿勢をとらされ、“5年生が賛成しているのに、4年生のきさま等が反対するとは何か”とどなられ、しばられた。皆頭に来た。“やっつけよう”新品の長靴をはいている、これをやろう。誰かが薬の瓶にコールドールを入れて持って来た。今度はやっつける相手が少佐殿だ。“やったのは誰か”と言われたら全員で手をあげようと誓い、決行の時を待った。土曜日がいい、土曜日は1時から職員会議があるから。今日は全員で、それまで部屋の掃除をする。職員会議が始まった。見張につくものが配置され、決行された。新品の長靴の両方にコールドールが流しこまれた。完了の合図で全員下校した。

月曜日の朝、前科のあるB組的のを向けられ、学監の先生が来た。いきなり“やったのは誰だ”“はい”と全員が手をあげた。これを見て先生、一同を見廻してから出て行った。次々先生が替わって来た。おどかし、自分から進んで名のり出た者は処罰しないとか…。



断熱をしていない場合

## わたしたちは、「環境創造」会社です。

ガラスのわた「グラスウール」断熱・吸音材によって、わたしたちは省エネルギーを進めながら、快適環境を創造してきました。いまでは、住宅から大型建物まで、欠かすことのできない建材として、幅広く利用されています。



パルメント硝子工業株式会社

●東京営業所/東京都中央区日本橋久松町11-6(日本橋TSSビル) 〒103 ☎03(3665)0301 傳 FAX03(3665)0309  
●営業所/大阪・名古屋・仙台・福岡・札幌・青森・郡山・信越・広島・鈴鹿 ●本社/郡山 ●工場/郡山・鈴鹿



十分な断熱をした場合

しかしこちらの態度はかわらない。どう処置するか、職員会議は続いている様だ。B組全員を処罰することは出来ない、との結論で、不問になった。

新品の長靴をだめにされた少佐殿、おこって原隊に帰り、二度と姿を見せなかった。日頃いばりちらしている少佐殿がいなくなり、先生方もほっとしたのではないか。

こうまでさわぎを大きくした以上、こちらでひきさがるべきと衆議一決し、ゲートル着用は賛成した。

毎回の実行者は誰だったか、都合好く忘れてしまった。でも自分でないことを明言しておく。

(税理士)

## 会報第15号を数えて

長谷川輝 (49期)

歌舞伎座の裏に大洋漁業の「潮」という社員寮があり、結城洸 (55期) さんのお世話で集まった。一層よい桑野会に発展する為、どうすればよいかと言う趣旨だったと思う。集まった面々 (敬称略) 高瀬礼二 (46期) 星武夫 (49期) 竹花則栄 (55期) 十屋七郎 (57期) 池田和男 (58期) 鶴沼直雄 (63期) 石川照雄 (64期) 渡部喬一 (64期) 斉藤英彦 (69期) 武藤一駿 (74期) 保坂武門 (76期) これに結城・長谷川が加わった顔ぶれで、十何年以上昔のこと記憶ちがいがあれば御容赦下さい。常日ごろ同窓会の発展を願っていた人達で連絡がとれて当日気安くお集まりいただいたにすぎません。

当時、会の規則で事務所は会長宅に

おくという事だったが、武藤さんの好意で銀座の武藤法律事務所にお世話になり、多々迷惑をおかけしたと思う。そのあと神田の星会計事務所を経て現在は新宿の斉藤法律事務所でお世話になっている。自前の事務所が持てるのは何時の日か、という訳です。

話はそれだが、お歴々にお集まりいただいた時に、議題こそ掲げていませんが、議論百出、内容は桑野寮の再建のほか多岐に亘った。桑野寮の建設は将来の夢として、取敢えず一つの柱として会報発行を取り上げることになった。これもかなり前からの懸案事項で難物。次の役員会で壁谷会長の決裁を戴いて出発したのが現会報の創刊号ということになります。

何か形があって始めたわけではなく企画も対策ありません。予算計上されているわけではなく経費も0ですから、がむしゃら流の安積魂だけです。早速印刷を引受けた担当者は校正経費の支払に自腹を切る始末です。全支出の財源は広告掲載料で賄うわけですから「スポンサー」さがしに一苦勞です。わずかの縁故をたよりに願いますしありません。喜んでお引受けしますというのはうそに近いことがよくわかりました。

会全体の経費節約のため総会の案内状を兼ねた会報発送ということも条件に加えられます。従って総会日の約一ヵ月前に印刷完了が必要となります。これを睨んだ原稿集めが一仕事です。早目に原稿が集まるということは皆無でしょう。泣くに泣けない会報屋という言葉も出て来ます。

名簿の整備とあて名書・発送も大仕

事でしたが、これはワープロが助けてくれたので当事者の苦勞は大変ですが解決しました。

編集スタッフも10号に及んで整いました。(敬称略) 水口・桜井の見事なコンビと性能抜群の丹治牽引車、それに加えて村上・坂本・玄葉ほかのすばらしい頭脳集団が全開中です。この際老兵は消え去ることと今後各号の発展を安心して見守る次第です。

最後に会報巻頭に3綱領が掲げられています。現澤田会長が就任を機に明文化されました。これにもとづき判断処理運営されて参りました。安積桑野会の東京支部というものではありません。下部組織として兼ねて役割を果たす度量は勿論ありますが、その程度の巾も併せもつ東京桑野会と申せましょう。会報を軸として益々の発展を期待します。

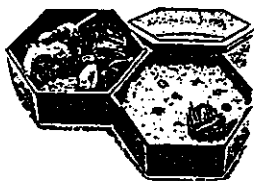
(元幹事長)



佐藤昭一氏・画

健康の喜びと味の文化を探求し、明快な味をお届けする

弁当給食 & 仕出しのパイオニヤ



仕出し部 あさか野

〒963 郡山市細沼町3番20号・協同組合郡山商工給食センター

理事長 小針良雄 (67期)

☎ 0249-33-2357・FAX 0249-33-2769

## 朝河博士生誕120周年記念事業と行事について

柳沼八郎 (50期)

“歴史学は熱なき光である”

とは安積に学んだ誰もが敬仰してやまない世界的な比較法制史家朝河貫一博士の語である。その博士が二本松に産声をあげたのは1873年12月20日(戸籍上は22日)のことであって、今年のはめぐりめぐって同じ癸酉、まさに120年目に当たる。

ところで先年、畏友故阿部善雄元東大教授の遺業を継ぐ形で、博士の邦文172通、英文126通の書簡と訳文等に解説を加えた「朝河貫一書簡集」が公刊された。

これにより、偉大なる先輩の生い立ち、その学殖と平和思想の実践家としての足跡に新しい光を当てることができた。幸い、TV、新聞による報道も加わり全国的に相当な反響を呼んだことは周知のとおりである。

なおこの刊行事業の延長線上には、早大社会科学研究所に拠点をおく「朝河学」の研究を旨とする「朝河研究会」が発足し、隔月例会を開いて会員による研究報告と討議が行われ、この記念事業の一環として、論文集刊行の企画が実行段階にある。

また、福島県においては県下の中学・高校の生徒を対象とする国際理解・国際交流に関する論文に対する朝河貫一賞の設定、二本松市では中高生がイェール大学に博士の足跡を訪ねるとともに、ホームステイを通じて国際交流をはかるなど、博士顕彰の事業も着々その緒

につきつつある。

そこで上記書簡集の刊行に力を協せた関係各方面から、この生誕120周年を記念して、時宜を得た行事を企画し、かつ将来を展望した事業に取り組むべきだとする声が挙がっている。

1月30日には二本松市役所において、朝河博士生誕120周年記念行事発起準備会の第1回会合が開かれ、記念出版、講演と遺品展覧の催、研究と顕彰事業を一本化した永続性ある法人たる事業団の創立発起などについて、意見の交換と各方面の特性に応じた業務の分担・連携の方法、必要な財源の調達などについて検討された。

わが東京桑野会からは土屋幹事長、水口副幹事長、朝河研究会を兼ねて柳沼・矢吹幹事が出席した。もとより、この記念行事・事業の計画そのものについては、佐藤県知事との十分な意志疎通のもとに進められ、知事からは民間主導を進めることのアドバイスと、できるだけの協力を惜しまない旨の言明がある。

4月の東京桑野会総会の頃には、上記の行事と事業計画も、かなり明確になってくる筈である。今のところでは

①東京を中心とした記念論文集の刊行と記念講演会等の開催

②二本松を中心とする市教育委員会による朝河博士に関する生徒向け副読本の刊行と記念行事

③安積高校(郡山)としては考案中

④(仮称)朝河貫一顕彰事業団(財団または社団)の設立発起

などである。会員各位の積極的な参加と協力が望まれる。(5. 2. 1記)

(弁護士・朝河研究会顧問)

## 私の安積を出てからの歩み

佐藤義重 (50期)

私は昭和13年に安積を出ましたが当時東京美術学校の図画師範科を出られて安積の図工の先生をして居られた今は亡き恩師石川一郎先生の御指導で念願の東京美術学校彫刻科塑造部へ入学しました。

田舎出の若者にとっては何も彼も立派な学校で教授の先生方も立派。教材も立派。陳列室の原寸大の石膏コピー像群には思わず感嘆の声が出る程でした。

何もわからずに入った私も考えました。学校が教えようとしている美術とは大変なものらしい。これは大変なところへ入って来た様だと若気なりに痛感しました。

それから彫刻芸術とは一体どういうものなのだろうと考える様になりました。

彫刻芸術とは何ぞや? と、友人、先輩に問うても明快な答えは得られませんでした。そんな或るとき一冊の本にめぐり会いました。

その本は高村光太郎著「造形美論」で、その中に「彫刻の本性は立体感にあり、その命は詩魂にある」と、誠に明快に言い切っています。私はこれだ、と喜んで飛び上がる程でした。

然しそのときは十分に感じ取れたわけではなく、数年経て、より感じ取れ、更に数年経て、より感じ取れると言った次第のものでした。

或るとき用あって教官室へ行ったと

### 営業品目

- 煙突・公害防止関連機器
- 貯槽・塔槽類
- 鋼構造物

### 上記品の

- 設計・施工監理
- 点検・調査・診断
- 製作・建設



株式会社 富士ハイエンジニアーズ

一級建築士事務所

〒105 東京都港区新橋4丁目21番7号

つるや加藤ビル

TEL (03)3434-1611 (代表)

代表取締役 遠藤 修 (67期)

き、そこに教材として据えてあったおそらくギリシャ神殿のものと思われる女神像の頭部を見たとき、他にはあまり感じられなかった何か立体の強さ厳しさの様なものを感じて、彫刻の本性とは、このことを言ってるのだなと強く感じました。ロダンのビクトルユーゴーの首を見たときも、京都高尾山神護寺を訪ねたとき秘仏の釋迦如来立像(弘仁時代)を拝観したときも同じ様な感に打たれたことを忘れられません。

後になってから彫塑制作に際しては何時も彫刻は立体感、塊だ、と、念仏を唱える様にしてやっていたものですが、或るとき試しに何も考えないでやってみようと思いました。その結果出来上がった作品にねがう彫刻性が現れ居れば良し、さもなくば又もとに戻って彫刻は塊だと念仏を唱える様にやれば良いと思って全く何も考えず意のおもむくままに制作してみました。その結果は今までよりも素直で而も強い彫刻性が現れているのを見て自分でひそかに大きな納得の喜びを感じました。それからの制作には何も考えず無心意のままに制作する様になりました。

立体感。塊の感じの強さ。内から外への強い存在感があって吹き消し難い感じのするいわゆる彫刻性が彫刻芸術の魅力の源泉です。

彫刻芸術観賞の場合はこのところに意を置かれて観ていただきたいものと切に思うものです。

(彫塑家・日展会員)

## 首都・郡山移転論

島田守家 (51期)

### 1. なぜ首都移転は必要か。

昔、全ての道はローマに通ずという言葉があった。今の日本は全ての道は東京に通ずになっている。終戦直後の10年間、国民は食べることに追われた。一応それが満たされたとき、こんどは住ということになり、人々は競って東京へ東京へと民族の大移動がはじまった。昭和30年代のことである。なぜ東京を目指したのか。それは地方には仕事がなく、東京へ行けば何か仕事があるからである。この状態は今も変わっていない。地方の活性化のためにトンネルを掘ったり、橋を架けたりすると反って人が東京に集中するようになる。その原点は徳川家康が1603年に江戸に幕府を開き、強力な中央集権政治を行ったこと(この紋所が目に入らぬか)、それを引きついで明治維新の勝組が田舎者と馬鹿にされるコンプレックスの裏返しとして、以前にも増しての中央集権政治を行ったことにあると思う。つまり今日の日本の一極集中は1603年にはじまったので極めて根が深い。今の東京はワシントンとニューヨークを一緒にした状態である。こんな国は日本だけらしい。小生の次男(工学士、大手電気メーカー勤務)は先頃ロンドンに3週間出張した。行った先の会社の英国人同僚の家はロンドンの中心部から北に50キロだそうだが、隣の家まで2キロあるという。とにかく今の東京は異常であり、首都

機能を地方に移転する他に道はないと思う。

### 2. どこへ移転するか。

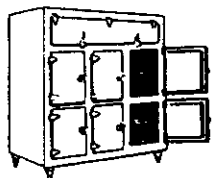
首都移転というのは司法立法行政の府と天皇事務所の全部、公務員とその家族、学校病院商店街から娯楽施設までの全部である。移転先の条件としては、

- 1) 東京に余り遠くないこと。
- 2) 県内の一部を特別区とするわけだから、余り小さな県でないこと。
- 3) 水があること。
- 4) 自然災害のないこと。

が最小限の条件となる。北海道から沖縄までを考えるとその中心は近畿地方になる。歴史的に見て、文化は東進して来たので、今さら西でもあるまい。失脚した政界の大物は北上市と言ったらしいが、これは北すぎる。私の見解では候補地は2ヶ所しかない。

一つは愛知県三河地方ともう一つは福島県の白河・郡山間の平原である。愛知県は何しろ東海道という交通事情の悪い所をはさんでおり、また東海大地震などを考えるとこれは駄目。すると残るは福島県しかないと私は考える。この地域もかなり開発が進んでいると思うが、用地の確保はまだ出来ると思う。水は猪苗代湖か、新しく南会津方面から水路を造ればよい。天災はない。東京から近く、交通事情も他所よりは良いだろう。21世紀中には何とかしなければならぬ大事業である。皆さんのかがですか。

(元気象庁)



会長 小濱精吾 (58期)  
社長 堀江 守

## 総合厨房設備工事 設計製作施工

サービス工事もお気軽に御申付け下さい。



株式会社 田崎製作所



本社藤岡工場 栃木県 下部賀郡藤岡町大字藤岡 872番地  
TEL 栃木藤岡 (0282) 62-2678(代)  
FAX (0282) 62-9579  
東京支店 東京都足立区弘道1丁目29番7号 TEL (03) 3880-4865(代)

## 若き血たぎらす安積野

陳野重喜 (54期)

昭和十二年四月の入学式は希望にあふれる反面、不安にかられる一面をもった安中生としての門出であった。当時の郡山は人口が五〜六万で上級学校といえば安積中学と郡山商業きりなく、須賀川や本宮の近郊からも汽車通学生として入学してきたから、安中に通うということは誇りであったが、質実剛健をかかげるまだ見ぬ上級生に畏敬の念をいだいた。小さな一年生には三年生以上の人々は大人の世界にいる人種として感じたからである。当時としては一クラスから八人の進学者がいることが珍しいとされた赤木小学校の卒業生は、集団をつくり、三年生のリードで四キロ近いたんぼ道を、風の日も雨の日も休むことなく通学した。一学期の終わり頃になると、辺りの風物を楽しむ余裕もでてくる。赤木町の坂を下り、上りにさしかかると、咲田町になり、上りきった所に、麓山公園の脇から旧市役所の前を経て小松醤油の前を通る十軒道路を横切らなければならなかった。角にある咲田医院の脇を真っ直ぐに二十メートル程進むと、安積野が悠然と開けてくる。右の低地に建つ桃見台小学校の屋根が見え、やや左正面に片倉製糸の茶煉瓦の塀が望見され、左遠くに安積高女が望まれた。片倉製糸脇の畦道に入る迄の安積野の風物詩は私達通学生にはこの上もない贈り物である。右に見える北の安達太郎連山は間近にせまり、遙か西の彼方に聳え

立つ磐梯山と共に、四季折々に変化にとんだ絵姿を提供してくれた。春霞たなびく安積野に、濃青色から薄紫に変色した安達太郎が微笑みかけ、その西の麓を覆うように霞の中に姿を現す安積山からは春告げ鳥の郭公の鳴き声が響きわたる。「カッコー、カッコー」という声に牛が「モウー、モウー」と唱和し、私を忘れては困ると「ヴォー、ヴォー」と野太い声で時折鳴く山鳩に、小鳥は嬉々として囀りまわり、西の彼方にほのかにうかびあがる小さな人家をやわらかく浮かびだして、自然をより美しくしていた。西より吹きつける冷たい磐梯おろしに向かって進まなければならない辛い時もあったが、半世紀たった今でも、思い出されるのは長閑な安積野の春景色である。片倉製糸と安積高女の間を抜けて、開成山の二番池の土手に登ると、学校まで半分以上の距離を歩いた。二番池の土手には数本の山桜が植えてあり、一番池の五十鈴湖畔にある江戸時代に作られた吉野桜より、風情があって好きである。春には桜花を楽しみながら、通った開成山の桜並木であったが、冬には吹雪を和らげてくれた。日中戦争、大東亜戦争の最中に中学時代を過ごした私達は、四年生頃から高下駄通学が多くなり、雪中で鼻緒を切って、素足で雪の中を歩いた時が、思い出される。駅前から真っ直ぐにのびる女学校通りは、タブーの通りであったから、我々安中生は南や北の道で登校した。学生時代、空襲で住まいをなくし、杉並和泉町から上野まで徒歩で歩いた事や、戦後の食料難に悩まされた社会人生活初期を切り抜けたのも、通学で鍛えた足

腰と安積野の悠久とした自然が心の支えになったのだと思う。

(プロデューサー)

## 旧制安積中 57 期修学旅行記

渡辺大助 (57期)

92年11月16日は晴天だった。ひかり221号東京10時発の指定の席へ乗り込んだのは4名、常々会いもし、話もしているクラスメートは極少数だった。僕等の学年は200名位の人数だった筈だが、今日の参加者は30名で手にしていた名簿から名前と顔が一致する人は小学校の同級生と卒業アルバムのみから探した10名内外の人であったからである。それも仕方ないのだ。47年振りに会う人が半数以上なのだから。

ヤアー、元気?などと声を交わしたのはまずは知った顔だ。そこから君の隣は誰だっけ?僕、渡辺です。などと交流をつぎつぎに広げる段取りである。

比較的交流の多い人ではなく47年振りに会うことに意義があるのだなと思いつつ名前と顔と中学時代の痕跡を見つけようと記憶をフル回転させる。段々と顔の奥から昔が蘇ってくる。タイムスリップ!それでも一致しない人がいる。話しているうちに分かった事だが、我々の学年では2年から幼年学校へ行った人かいは2〜3年からは少年飛行学校や3〜4年からは予科練、4年から陸士、海兵へと進んだ人がいるからだった。

皆それからどの様にして激動の時代を生き抜いたのか?今、目のまえのク

## 株式会社 東京シンクサービス

- 業務 特許公報の抄録・翻訳、工業技術の指導・調査
- 特色 高齢者の雇傭  
(全従業員91%が60才以上、70才以上は54%)

〒101東京都千代田区内神田2-13共同ビル  
電話 (03) 3254-5805  
代表取締役 鎌田 正二(43期)

ラスメートはそれぞれ元気で幸せな人生を満喫している様子である。良かったね！私は感謝の気持ちで満たされるのを感じた。

修学旅行は京都、先ず最初は東福寺、四天王、大日如来、菩薩等々沢山仏がいるものだ。人間だれしも幸福を求めているが、それぞれ十人十色、人を見て法を説く為には役者を揃えていると言う説明に何となく感心する。

通天橋の紅葉は燃えるように赤く輝いていた。三三五五とカメラに収まる。その日は藤原氏の極楽のイメージを残す平等院をゆっくり見物してホテルへ。

翌日のハイライトは嵐山パークウェイだ。高雄山神護寺は健脚向きコースだ。千切の溪谷を下りたり登ったり。それでも皆さんエライ元気でお喋りしながら深山の紅葉を堪能した。

あだし野(化野と記す)念仏寺は何かおどろおどろしい雰囲気がある。昔の日本は(戦国時代)死体が町中で誰でも目撃出来たそうで「ゆく河の流れはたえずして……」で始まる『方丈記』は都に累々と横たわる死体から発する臭いのことなど精密に描写されているが江戸時代以降は社会から排除されたということを示す記事で読んだことを思い出した。

パークウェイの紅葉も素晴らしかった。

T君は天龍寺に特段の思いがある。終戦直前彼は陸士を受験した。合格通知には満州の陸士である軍官学校が指定してあった。早速満州に入学したが間もなくソ連軍が攻め込んできたのだ。彼はシベリヤに強制労働のために連行された。軍官学校の200名の内3分の

2は現地で亡くなり此処天龍寺に葬られているとの事である。

西芳寺では般若心経があげられた。色即是空……生まれること無く滅すること無く…意識も無く…。

再会を望みながら私は京都駅で一足早く横浜への帰途についた。皆さん有難う。また元気で目にかかりましょう。この修学旅行に来れなかった皆様の上にもお守りがありますように！

(経営コンサルタント)

## 「言の葉」の時空に遊ぶ

石川衛三 (57期)

「色は匂えど散りぬるを 我が世これぞ常ならむ…」 Though the color be fragrant, the flower will fail. Who in this world of ours will last forever?

筆者は昨92年3月、茨城大学(教育学部)退官後、住居の近くの大学に勤務しているが、その学園のあるゼミで冒頭の句のような古今東西の名句・名言の類を取り上げている。安積の学窓を巣立たれて各界にご活躍の諸氏諸兄よ、ものは一興、頭の“体操ないしレクリエーション”もかねて、しばし時空を駆け巡ってはいかががであろうか。少なくとも、killing time(時間つぶし)できることは確かです。

まずは人生一般から。As is a tale, so is life; not how long it is, but how good it is, is what matters. (セネカ)。なるほど人生は物語と同様、長さよりその密度・中味だというわけか。それで? In one's old age, a life without memories is a sad one. (ト

ルストイ)。ははあ、「思い出」ね。それは確かに……で? He who lives without committing any folly is not so wise as he thinks. (ラ・ロシュフコー)。え? それでいいんですか。有難いおことばだが…。 Does he not return wisest who comes home whipped by his own follies? 自分の愚行に鞭うたれて家路につく……か。ジーンとくるなあ。そう畳み込まれると、かもねえ。C'est la vie. (それが人生)なのかも…。

たしかに考えて見ると Man is not born for happiness. も、また No one is indispensable. (人間、いくらでもお代りがある)もそれぞれ、真実の響きをもっているしなあ。とはいえ、一方、I can resist everything except temptation. (ワイルド)みたいな、いささか不真面目なヤジも聞こえてくるけど。いやいいのさ、何せ No action is in itself good or bad but only such according to convention. (それ自体、善いとか悪いとかいう行為はない。ただ因襲次第で善くも悪くもなるのだ)し、What's vice today may be virtue tomorrow. (フィールディング)ということも、けっこうある。では Tomorrow に望みを託することにしようか。ところがである、We are here today and gone tomorrow. という次第で、冒頭の一句と照応するオチである。ちなみにその「死」について兼好法師はいつている。「人 死をにくまば生を愛すべし。存命の喜、日々にたのしまざらむや。」(徒然草) People who hate death should love life. How is it possible for men not to rejoice each day over



株式会社 渡辺電務社

電気設備設計施工

本社 東京都江東区三好1丁目1番2号  
電話東京(3641)0136番(代表) ㊦135  
千葉営業所 千葉県千葉市都町2丁目5番1号  
電話千葉(0472) (31)9287番 ㊦280

取締役社長 渡辺豊定(58期)  
(旧姓沢村)



### 池田君おめでとう

阿部繁 (58期)

58期池田和男氏は、7月17日(金)椿山荘にて結婚披露パーティーを行った。

池田君おめでとう。

長いこと不自由な生活だったでしょうが、本当に良かったですね。青春よ再び!と嬉しそうでしたよ。これから猛ハッスルでご活躍されるでしょう。祈ご健康。

小塚先生にも久し振りにお目にかかれて元気なお姿にビックリ。以前にも増して若々しい。このぶんなら百歳以上までも大丈夫。ご壮健でお過ごしを!

クラスメートの諸兄、ご壮健でなにより。郡山からわざわざお祝に駆け付けてくれたみなさん、ご苦労様、お久しぶりでした。どこに居るのかお話しする機会が極めて少なかった方もあり残念でした。

池田ご夫妻のデュエット、池田兄はチョッと照れ加減でしたが、奥さんの美しい歌声には大喝采だった。

誰かが言った、“池田のヤロー!あの美しい歌声でこれから毎晩子守唄を歌ってもらって、寝かしつけてもらうのか、チクショー”

ヤッカムナ、ヤッカムナ。

我々も池田兄にあやかって青春を取りもどしましょう。

(加瀬・阿部建築事務所)

### “旧良旧婦”二人仲良く

池田和男 (58期)

昔20歳代に読んだエッセイを思い出した。筆者名(男性)は忘れたが要旨はこのようだった。“40歳過ぎて人生ありや…オシャレに無関心だからズボンの折り目などは気にならないし、借り着も平気。若い女などは鼻も引っかけてくれないし…”といった調子で、中年男の生きざまをユーモラスに、やや自虐的に語っていたように思う。

その後暫くして、「48歳の抵抗」という小説が評判になり、流行語にもなった。微かな記憶によれば、憂鬱な毎日を惰性的に送る48歳の主人公が、妻以外の女性と関わりを持つようになり、抑圧された己の人生に彩りを見いだすといった物語だったように思う。(間違っていたらお許しを)

それらを読んだ当時の私には、人間40歳50歳ともなると、その日常は潤いの無い日々の連続であり、ロマンの消え失せた、いわば人生の黄昏時のようなものに思えた。その私が、今やそれを遙かに越えた年齢となってしまったのである。若い女性の用語で云うならば、オジンと言われる年代をとくに過ぎた“化石”なのである。その“化石”である私が昨年結婚した。先妻との死別後10年、64歳での再婚である。土屋、竹花両先輩のご配慮により、椿山荘にて心温まる披露パーティーを催して頂いた。ご好意が大変有難く、感謝の念で一杯である。(パーティーでは、われわれは“旧郎旧婦”という称

号を授与された。)

ところで、再婚も一つの華やきかも知れないが、若い新婚と違って、そこに至るまでには虚しく侘びしい邪魔が出ることも多いらしい。つまり、再婚の為の環境整備が必要となる状況もあるということだ。何はともあれ、私達は幸せにならなければならない。でないと結婚の意味がないし、第一、祝福してくれた皆様に申し訳がない。だから、…ま、二人仲よく、協力して、うまくやっていこうと思う。そうやって…あと何年生きられるのか・…なんてことは念頭に浮かばなかった。四十代・五十代でも死はあるし、八十代の方が元気で毎日を送っている例も少くない。先のことは解らないし、解らない寿命を心配していたら何も出来なくなってしまふ。現今の寿命は大幅に延びているらしいから、自分だってまあまあ余命は有るだろうぐらいに考えている。

ところで、この原稿はワープロで作った。いや、一旦は作った筈だった。2月11日休日の午後、悪戦苦闘の末、大半の所まで書き上がっていたつもり



## 公認会計士 星 武典 事務所

ムアーズ・ローランド国際会計事務所所属

〒101東京都千代田区神田錦町2丁目5番地(KSビル3F)

TEL(03)3291-8361 FAX(03)3291-8465

星 武典(58期)

だった。夕べに、ワープロをそのまま  
で、のんびりと入浴を済ませ、少々の  
ワインと夕食、しばしの休息。さて、  
と戻ったら“作品”は忽然と消えてい  
た。呆然！ 何故かその部屋のプレー  
カーが切れ、一時停電が犯人だった。

(税理士)

## 滑津動員の思い出

本橋正義 (61・62期)

昨年末、私は胆石症で胆のう摘出手術を受けるため十日余り入院した。年明けの退院となり、心身共に清新な気持ちで自宅に戻った処、広報部から今回の会報原稿依頼が届いていた。桑野会に出席常ならざる私に執筆依頼とは、と思案したが、思うに、今年の春、秋と桑野会のゴルフコンペに参加し、沢田会長はじめ多くの先輩や広報部の諸兄とも楽しくプレーさせて頂いた関係からではないかと推測し、些かの雑感を記して責を果たしたい。

私達は桑野会〈61・62期〉生である。入学は全員昭和18年4月だが、卒業は戦後の学制改革のため、旧制中学最後の昭和23年3月と新制高校第1回の昭和24年3月の二年度にまたがっているからである。同期会としては〈61会〉の名称で、毎年6月第1土曜、郡山を主会場に、数年に一度は首都圏で旧交を温めている。

私達61・62期生にとって在学中最大かつ共通の思い出となっているのが、終戦直前の昭和20年5月、中学3年になって間もなくの一ヵ月余り、棚倉近くの飛行場建設に全員動員された時

のことである。宿舎となった滑津小学校から作業場まで毎日約一里の田舎道をクラス毎に隊列を組んで往復した。平屋校舎のむしろを敷きつめた教室で、夜は軍隊毛布にくるまって雑魚寝。食事も戦争末期のため菜葉が沢山混じった米飯の連続で、(尾籠な話で恐縮だが) 全員、緑色の便しか出来ない有様……。兎に角、言葉に尽くせぬ苦しく辛い動員生活であった。

今から十数年前、61会の特別企画として、その滑津を訪ねたことがある。当日は開成山大神宮に集合、先ず宮司の宮本勝重君(同期生)の祈祷修祓を受けた後、バスで一路、水郡線沿いに滑津小学校に向かった。かつて小高い丘にあった平屋の校舎は、二階建の鉄筋校舎となり床もPタイル張りの新しい建物となっていた。教頭先生に記念品の掛時計を贈った後、校庭に出て周囲の山々や点在する家を眺めながら、しばし思い出を語り合った。

やがて日も西に傾きかけた頃、汗まみれで作業した飛行場跡をバスの窓外に探しながら、滑津を後にして岳温泉へと向かった。その夜の宿では、何十年ぶりに会った級友も多く、なつかしい語らいに夜の更けるのを忘れるほどであった。

今年の61会は東京の浅草ビューホテルに50人余りが参集した。二期会などで活躍中の声楽家・小田清君、読売新聞元論説委員の門馬晋君らの顔も見え、遠く大阪、名古屋からの参加者もあって大変盛会であった。久しぶりの再会と談笑の中に、いつしか磐梯、安達太郎を仰ぎ、五十鈴湖畔を共に歩んだ安積の頃にタイムスリップしたか

のような雰囲気となり、次回を約して散会した。

(山崎学園富士見中学・高校 常務理事)

## 「友」は人生の宝

宗像紀夫 (73期)

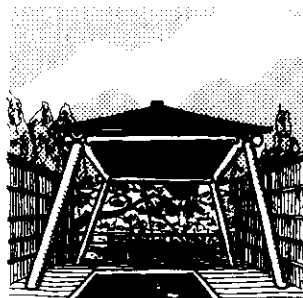
最近、安積高校時代の友人に会う機会が比較的多くなってきた。昭和35年に安積を卒業してから上京し、大学を経て現在の検事のの仕事に就いて以来、じつに33年の歳月が流れた。しかし、この間仕事一辺倒で、しかも超多忙であったため、ほとんど昔の友と交流する余裕もなかった。ところが、今から4年程前のある日高校時代の友人からかかってきた電話から、付き合いが始まった。

それは、私が東京地検特捜部でリクルート事件の捜査に取り組んでいる最中のことであった。同級生の懐かしい声が「おれだ。君を激励する会を近く開くから来てくれ」と言った。そして彼は、この会に出席予定のメンバーの名前を上げた。私はその名前を聞いて懐かしく、頭の中が安積の学窓時代に一瞬にして戻ってしまった。

そして、程なく目黒の料理屋で10人位の「旧友」と再会した。皆それぞれの人生を逞しく生きていた。各自が相応の年齢を重ねていたが、あの伝統ある学舎で学んだ意気は高かった。その夜私は事件を忘れて30年ぶりの友と痛飲し語り尽くした。

あの名優チャップリンは「人生は生きるに値する。ただしそれには、勇氣・希望・サムマナー(些かの貯え)が必

ふるさとへの  
ご旅行ご出張に  
ぜひご利用ください。



好評の木造り露天風呂をお楽しみください

■政府登録国際観光旅館■日本観光旅館連盟会員



磐梯熱海温泉

紅葉館

〒969-21 福島県郡山市熱海町熱海4-39 (磐梯熱海駅前) ☎0249-84-2130 村田英男 (75期)

要だ」と言っているが、これに「友」を付け加えたいと誰かが書いていたが、私も同感である。いい友人は、勇気や希望を与えてくれるのではないかと思う。人生の後半を楽しく過ごせるかどうかは、いい友を持っているかどうかで決まるのではないかと思う。

その後、高校のクラス会が郡山で開かれたり、個別の付き合いも深まった。私にとっては、検事として25年も犯罪の捜査と裁判という特殊な仕事をやっていて、しかも政治家のからんだ事件などをてがけていると、「日本の国はいったいどうなっているのか」と一人慨嘆することもしばしばで、昔の友と心を許した話ができることは、このうえない喜びである。

青春の一時期を共有した男の友情はながく崩れることはない。利害を超えた、しかし困ったときには助け合う、そういう友でありたいものと思う。

50歳代になって考えることは、自分に忠実に、物事に感激できるような若々しい精神を持ち続けたいということである。

立志伝中のホンダの創業者本田宗一郎氏は「人生というものは、何回感激できたかということで価値が決まる」と生前語っていたという。誠に心にしみる言葉である。

今後の私の人生は、いい友を大事にし、友情の輪を広げ、豊かな精神生活を送れるようにしたいと願っている。

そして、本田さんのいう「感激的人生」を送りたいものだと思う。

(東京地検特別公判部長・検事)

## 「安積」のもたらした幸運

渡辺宏明 (91期)

私は、「安積」と深い縁で結ばれているようだ。昭和五十年に入学以来、十八年が過ぎたが、いまかえりみると、私の人生のラッキーな場面には、必ず「安積」があった。

私は、もともと東京の出身であり、福島には高校時代の三年間しか住んだことがない。父親の転勤に伴う転居で郡山に来たのだが、それは私が入学する前月だった。私は山形県から越境入学したのである。

山形県の高校入試は英語、数学、国語の三科目であったが、福島県はこれに社会、理科を加えた五科目である。

父の転勤は、入試の年の一月に判った。あと二カ月でまったく準備をしていない二科目を仕上げなければならない。しかしながら、私の心に焦りはなかった。まるで「吸い寄せられる」ように私は「安積」に入学した。

もし、私が山形に留まっていたら、地元で一番の高校にはわずかに成績が届かず、諦めざるを得なかっただけによるこびもひとしおだったが、同時に「安積」との並々ならぬ縁を感じたのであった。

さて、時は移り私は家族とともに東京に転居した。そして大学卒業と同時に、警視庁に就職した。入庁七年目の夏のことである。私は、既に一度目の本庁勤務を終え、主任となって品川区にある荏原警察署に勤務していた。署長の交代があり、新署長は福島の出身

であることを知った。交代の日初めて新署長のお顔を拝見したとき、すぐに以前、警視庁安積高校OB会でお会いした方であることに気づいた。

橋本健二署長、幸運にも私がめぐりあった最初の「安高OB」の上司である。「この東京で、しかもこの大きな役所の中で、OB同士が同じ職場で仕事をするなんてそうそう滅多にないことだな」と声をかけていただいた。

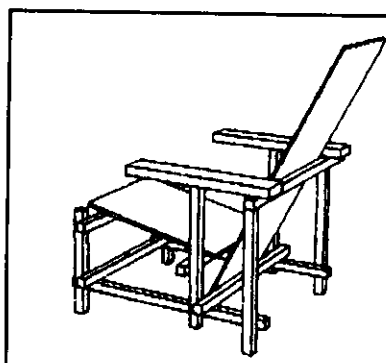
それからわずか七カ月の間だったがこの期間のことは私にとって、終生忘れえぬ思い出となった。トップに先輩がいるというだけで、どれだけ後輩は勇気づけられることか。そのとき、つくづく「安積」に入れてよかったとおもった。

私は、安高時代、「放送委員会」に籍を置き、校内放送業務と不定期の番組制作に取り組んでいた。そのなかでも番組制作で、ラジオドラマを作り、全国大会で入賞したことは忘れえぬ思い出である。その後、後輩諸氏の努力により、全国大会十三年間連続出場を果たし、また最近では、ビデオ部門へも進出し、その活躍は新聞の全国版にも取りあげられるまでになっている。

今年一月二日、安高放送委員会OB会が郡山市で開かれた。午後六時、私は先輩、同期、後輩と十五年ぶりに再会を果たした。お互いこの間のことを到底語り尽くすことはできなかったが、なごやかな一夜であった。「安積」は、私に「友」を与えてくれた。

「安積」が私にもたらした幸運に感謝し、いつかこの恩返しができる日のくることを願っている。

(警視庁総務部会計課主任)



- 婚礼家具
- リビングセット
- リビングボード
- ダイニングセット
- ハウジング特注家具

快適な暮らしに役立つ

応接・収納セット専門メーカー



マルクワ家具株式会社

株式会社 マルクワ

本社 埼玉県北葛飾郡杉戸町2360 0480(32)1131  
 卸センター・ショールーム 埼玉県北葛飾郡杉戸町2360 0480(32)1131  
 杉戸工場 埼玉県北葛飾郡杉戸町2360 0480(32)1131  
 自宅住所 埼玉県北葛飾郡溝地1-5-18 FAX 32-1139

常務取締役

橋本大三郎 (66期)

## 時空(とき)を超えて…

半澤浩一 (92期)

がポストへと舞い込む。現役の学生達が消息不明だったOB連の行方を四方八方手を尽くして調べて、ここ5、6年前より行われるようになった『安積高等学校放送委員会OB会』の知らせである。

私が現在の職場に勤務して4年経ったが、盆と正月にほんの数日間しか帰省できないのが現状である。そんな状況にもかかわらず、毎年1月2日に開かれるこのOB会への出席は欠かした事がない。

1月2日の我が家の朝の風景はなかなか複雑なものがある。『何も2日に行かなくても…』と不満な面持ちの両親と、1年ぶりに会える諸先輩方や後輩達と酌み交わす酒に、はやる気持ちを抑えるのに精一杯な自分との不思議なコントラストである。

集合場所の『旧本館』前では時間になると一人、また一人と集まって来ては新年の挨拶が交わされる。会場は通常は中華料理店が選ばれるが、円卓を囲むと和やかな雰囲気となって、先輩後輩の枠を超えての会話もはずむので自分は結構気に入っている。

乾杯に続いて一通りの自己紹介と近況報告。顧問の先生もいつしか自分のわずか数年上の先輩が就任している事に時の流れを痛感させられてしまう。

現役3年生は流石に受験のために参加を控えるようで、実際に会を仕切るのは2年生である。当然ながら彼らは

オレンジジュースかコーラでの乾杯となるのだが、少々淋しい気もする。

ふと気付くと「お久しぶりです。今年は大学生ですので、ご一緒できます。」とビール瓶を片手に近づいてくる後輩達は当時まだ高校2年生だった面々。前年が受験だったので、実に2年ぶりの再会である。近況などを聞きながら一杯、また一杯とグラスを傾ける。そして私も久しぶりにお会いする諸先輩方へご挨拶がてら一杯、また一杯…。

まさに時代を超え、空間を超えて、お互いに共有可能な時空がそこには存在するのである。単なる同窓会ではこうも行かないのではないだろうか？このOB会を発案し、毎年規模を拡大してくれている現役生達に感謝するばかりである。会の度に配布される会員名簿も段々充実してきている。ひょっとしたら現役生達がこれほどアクティブに主催してくれているOB会は『放送委員会』くらいじゃないだろうかと思っている。

会も一層盛り上がりピークを迎える頃お開きの時間となる。2次会はカラオケで自慢の声を披露する者や、更に酒を飲み続ける者や、喫茶店で会話に興じる者やらと、思い思い老若混在したグループに別れて夜の郡山の街へと消えてゆく。

お互いに1年後の再会を期し、また始まったばかりの新しい1年にそれぞれの思いを抱きながら…。

(静岡県立こども病院 麻酔科勤務)

## 「東京桑野会へ行こうぜ」

坂本考史 (105期)

昨年春、進学のため上京して間もない私のところに安積の友人から連絡がありました。「東京桑野会へ行こうぜ。」当時その存在を知らなかった私は誘われるままに目白の会場へと足を向けたのでした。当日、講義が終わると急いで電車へ飛び乗ったのですが、何分、八王子からは距離があるので三十分程の遅刻、加えて、こちらが学校帰りのジーンズ姿であるのに対し、皆様スーツでピシッと決めておられる。極度の緊張の中、意を決して会場内へと足を踏み入れたところ、私と友人とが珍しかったのか、皆さんとても親切にして下さって安心しました。数期上の先輩方と共に『隣のミヨちゃん』という比較的新しい野球応援の舞を踊った後は、いろいろな方々に御紹介いただき、その御職業、年齢層の幅の広さに驚かされました。“安積を離れた後にも、また新たな安積の発見がある”そんな安積の持つ懐の深さに感じ入ることのできた一日であったと思います。

さて、現時点では私の代が最も現役の安高生に近いということになるわけですが、そんな私の在籍していた安積について少し解説してみたいと思います。

まず私が入学早々とまどったのは、対面式なる儀式です。新入生がクラスごとに1列に並べられ、上級生の待つ体育館の中央へと入場し、そこで上級生に向かって挨拶となるのですが、彼

### 弾性無限への挑戦

### 工業用ゴム製品の製造

 株式会社朝日ラバー

本社 埼玉県川口市赤井2丁目13番11号 ☎334  
埼玉工場 電話0482(85)2251(代表)  
FAX 0482(85)2254

福島工場 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地  
電話0248(53)3491(代表) ☎969-01  
FAX 0248(53)3493

代表取締役 伊藤 巖 (65期)  
角田康夫 (71期)\*  
面川祐一 (100期)  
根本雅司 (100期)\*  
佐藤誠幸 (101期)\*

等に襲いかかる罵声たるや体育館を揺るがす地響きのようです。お許しが出るまで挨拶は繰り返され、その間、水爆（水風船）による直接攻撃も見られます。中には、着地と同時に発火、爆発する高性能ミサイルを製作した者もいるとかで、現在、その攻撃には規制が加えられている模様です。他にも応援歌練習などの硬派な儀式は健在で、毎年の野球応援にも熱が入ります。私がいた時には甲子園へ手が届きそうな年もあったのですが、悉く学法学石川にその道を閉ざされてしまいました。しかし、その中にも度重なる逆転サヨナラ勝ちなど安積独自のモチ味が見られ、そんな粘り強さは学外からも高く評価されていたようです。

一方、各種文化活動も盛んで、とりわけ紫旗祭は異様な盛り上がりを見せますが、普段の校内はおおらかな雰囲気にも包まれています。一般的にのん気に見える安高生も、いよいよ三年生ともなるとそのほとんどが進学を目指し、放課後、暗がりの校舎の中、蛍光灯の付いたままの教室が目立つようになります。そして、めいめいの春を待つのです。

私が在籍中、生徒会に所属していたこともあってよく耳にしたのが『安高共学論』です。その是非はともかく、安積の特徴を決定づける上で“男子校”というのは欠かせない要因です。そして、安積が一介の進学校にとどまらないのは、その周辺に在る潜在的な力による部分が大きいと私は理解します。その力を失う事なく、安積のさらなる発展を願いつつ、ここにペンを置きたいとおもいます。

(法政大学社会学部社会学科1年)

## ナンカを発見すればいい

椎根 和 (74期)

トロトロとした夢のなかで、これとコレを組み合わせれば、売れる、と独り合点して、ヤレヤレ大仕事をしたという気分で起きる。四年前ごろは、夢の中の一人編集会議の案も、眠りから覚めても思い出すことができたが、もう、今は、その記憶すらあいまいになってメモもできない。日々、進化する老化和健忘症。

お昼すぎに出勤する。ポツポツと編集者たちが、ドトール・コーヒーの紙袋を手に集まりだす。えーと、睡眠をとりすぎて不機嫌な表情のあの女性の名前は…思い出せない！ 四年も同じ編集部にいながら…。何くわぬ顔をして出勤名簿帳の在る所へ行き、その女性の名前を見つける。なんだナカダじゃないか。無理にネアカ人間になって「ツインピークス見た？」「見ました」「担当のビデオページでは、もう紹介した？」「しました」「…(覚えてない)」「…(なにかいいがかりをつけられそう、という感じ)」「面白い？」「イチオウ、オモシロかった」「そういう時は、ほかをはずして、ドーンと大きく紹介する機転がなくちゃ(ほとんど暴対法だったら逮捕されそうなものいい)」「もう流行オクレです。私の友人は全員見ちゃいました」「ウチの読者は、コレからだと思うけど」「オソイデス」「そんな態度じゃ、雑誌はできないんじゃないの。転んでも(もうなにを言いたいのか自分でも分からなくなってい

る)タダでは起きないというか、なにか企画案をひねり出すという作業をいつもしていないと」「…(悪代官様にバッタリ、という表情)」「たとえばクーバーがいつも食べてるチェリーパイとか(三日前の思いつき)を、ナンカと連結させれば、できるんじゃないの。そのナンカを発見すれば、いいんだよ。

この会話の後、二週間連続でツイン・ピークスがらみの特集を掲載した。脅迫と意地と無知にみちた編集室のギスギスした会話から、新企画案はでる。

(マガジンハウス・Hanako 編集長)

——— 1992年5月31日朝日新聞より

## 常任幹事になった、そして、やめた。Part II

昭和40年(1965)→59年(1984)

石川照雄(64期)

昭和39年の東京桑野会の会員名簿に記載されていた人たちは、顧問の鎌田正二さん(43期、チッソ)、鈴木健生さん(48期、粒波製作所)、副会長の吉田弘俊さん(52期、日銀)、竹花則栄さん(55期、椿山荘)、幹事長の土屋七郎さん(57期、吾妻建設社長)、幹事の古川正重さん(45期、千代田クリニック院長)、大森直道さん(49期、弥生工業)、佐藤義重さん(50期、彫塑家)、佐久間盛政さん(54期、満田税務署)、青山掌三さん(68期、朝日生命)の10名である。( )内は当時の役職名。

翌40年12月9日、17時。交詢社(会費1,500円)の総会にも出席した。

41年8月26日。杉並区の吾妻建設の社長土屋七郎さんから手紙がとどいてドキッとす。

企業のリクルーティング・教育・販促PRビデオの制作

教育研修の企画制作は当社にご用命下さい。

経験豊富なスタッフが対応致します。



株式会社 **リュウコーポレーション**

代表取締役 渡邊 龍一郎 (81期)

〒151 東京都渋谷区初台1-47-4 第2加藤ビル4階

☎ 03(3373)7590 FAX 03(3320)8218

『(略) 扱て、兼ねてから懸案の安積中学桑野会在京者名簿の作成に当たり、目下原稿整理中ですが、各位の住所が仲々判明せず苦勞して居ります。(略)』とあり、明治32年(11期)卒の橋本萬之介さんから、昭和37年(71期)卒の伊藤伸一さんまでの145名の名が、「ガリ版」で印刷された名簿が同封されていたが、住所欄は1/2ほど空白であった。

そこで、65期の津野宣夫さん(当時東京生命)と2人で、名簿作成のための情報集めに東奔西走にあけくれた。

キャップの土屋七郎さんに逐一報告をし、壁谷会長に「朱」(校正)をお願いして、41年11月15日、17時、交詢社(総会費1,500円、名簿料300円)の総会に間にあわせるよう『41年度新名簿』を作成した。

できあがった名簿は、A6判、本文132ページ、ツカ(背)のあるもので安積高校の沿革、本部役員名簿、在京桑野会(当時の東京桑野会の名称)役員、規約などを印刷したもので、当時としては豪華な名簿であり、それまでのワラ半紙ガリ版印刷の名簿にくらべ、たいへんな話題となった。

41年度の在京桑野会のスタッフは、  
会長 壁谷裕之(31期) 戸田建設顧問  
副会長 斉藤雅(33期) 銀安建設常務副会長  
佐藤喜一(38期) 渋谷医院院長  
福島県人会理事長  
常任幹事(会計) 渡辺武文(34期)  
安田不動産営業部長  
顧問 橋本萬之介(11期明治32年卒)  
田治経三(11期) 安田学園学院長  
寺田四郎(15期明治36年卒) 上智大学名誉教授

岡部三郎(22期明治43年卒) 東亜港湾社長

三沢敬義(26期) 東京大学名誉教授  
今泉兼寛(37期大正14年卒) 丸善石油化学顧問

当時は常任幹事は会計担当1名で会務を処理していた。

40年頃から、なんとなく、自然に、「雑用役」をおおせつかり、ご老体諸先輩の命令で(先輩はこわかった)コマネズミのように、総会案内の葉書DMのデザインや、当時はまだファクシミリといった便利なものがなく、印刷会社と、京橋の戸田建設の壁谷会長との間を小僧の「使い走り」をしていた。

昭和40年41年頃は、在京桑野会のために、よく動いた。(働いたのではなく動いたのである。)

総会の通知状のレイアウトや文字校正のため、印刷会社と壁谷会長(当時は京橋の戸田建設内にあった立派な顧問室)と逗子の自宅の間をとびまわったものだ。

42年12月9日、15時、交詢社。橋本萬之介さんの勲2等の叙勲祝いも兼ねた総会であった。1,600円。

43年11月9日、15時、交詢社。1,600円。この時の総会の出席者に、中山義秀さん(30期卒、作家)や、澤田梯さん(42期卒、日銀理事)の顔が見える。

私たち世代の仲間は、憧憬と尊敬の目で迎えたことを覚えている。今ふうにはいえばスターに接する気持だった。

44年11月29日、15時、交詢社。1,800円。

この数年は、老人が多いためか、総

会は、午後3時から5時の開催が多かった。そのため、若い層の総会出席をうながす対策が講じられはじめたが、せっかく若い卒業生が出席しても、「先輩顔」の老人が多く威圧感が大きく、翌年以降は欠席というのが目立った。

会には「応答なし」の悪しき伝説があるらしい。当時、土屋七郎さん(57期、渡辺電業)が事務局長的な立場でバリバリと東京桑野会の運営に努力していたのを記憶している。

51年10月12日、18時、交詢社。幹事会。11月19日、17時30分、ホテルニュージャパン。総会。5,000円。  
(榎東京クリエイティブセンター代表取締役)

## “酒”にまつわる話

村上昌弘(85期)

水産学にたずさわる学者のはしくれとしては“鮭”の話をするべきなのだろうが、“植物プランクトン”にかかわっていることを理由に“酒”にまつわる話をさせていただく。無論、“鮭”も“酒”の肴のお友達で、脂のよくなった塩ジャケの焼物(特に腹側がよろしい)で作った茶づけは、日本酒を多めに飲んだ後には最高である。最近では、スーパーの店頭には養殖ギンザケの切身がならび、本当に美味しい“鮭”を食べられる機会は少ない。10~11月にかけて知床の太平洋側を旅行する機会があったら、是非市場をのぞいてください。この時期、この地区でしか捕れない“鮭児”と名付けられた“鮭”が水揚げされる。残念ながら、私もまだ食べたことがないが、とにかく絶品だ

## 索道施設の総合設計施工管理

豊富な経験、最新の技術、万全のアフターサービス



# 東京索道株式会社

本社・工場/横浜市金沢区鳥浜町12-9

☎045(776)6550(総務部)

札幌営業所011-232-5382/仙台営業所022-267-0544

新潟営業所025-241-7147

代表取締役社長 横尾 稔(第66期)

- ゴンドラ
- スキーリフト
- ロープウェイ
- ケーブルクレーン

そうである。なかなか手にはいかないのと、1本数万円は覚悟しなければならないのが、難点ではある。予定と違い“酒”の話が“蛙”となり混乱してきたが、“酒”に戻す。

私が、本気で“酒”を飲み始めたのは水産学科に籍を置くようになってからである。それまでは、大学の授業もほとんどさぼることがない、品行方正な学生であった。クラブの先輩が一升びんを片手にコップ酒を飲んでいるのを見て、なんと下品な奴かと見下したことが今にして思えば異様に懐かしく思い出される。自慢するわけではないが、教養の成績はよく、優と良ばかりで不可は無論のこと可すら一つもなかった。当然どこの学部・学科へでも進学できたわけだが、なぜか農学部・水産学科へ進学してしまった。最近では、農学部へ進学するというと親が反対するそうである。農学というのは人間の営みに直接関連することをあらゆる角度から研究できるすばらしい学問領域であることをこの場をかりて宣伝しておく。農学を代表する“酒”の醸造技術の蓄積がいまはやりのバイオテクノロジーを支えているといっても過言でない。名前に惑わされるな！

水産学科学生2年間は本当によく飲んだし、無茶をした。私達の年代は悪いのが集まったようで、現在某国営放送局ディレクター2名を中心に連日連昼夜飲んでた。隣の部屋で水産植物学の講義（出席者2名）が行われているにもかかわらず、サッカー大会に優勝したお祝いで午前中より酒をくらい、午後の学生実験ではほとんどが泥酔状態となっていた。高価な器具は

壊すは、実験室をトイレと間違えて小水をする奴まで出てきた。実験を強行した先生は偉かった。1ヵ月におよぶ浜名湖での実習では当然のことながら宴会、宴会、宴会……。当時、実験所で博士論文をまとめていた助教授を筆頭に先生方にいまでもよく怒られる。“全くおまえらの代は……！”“スイマセン、未熟者でした、スイマセン”。20名の同級生を代表して、今後も謝罪に努めなければならない。それでも、全員無事卒業した。卒業旅行は藤田観光箱根小涌園飲み放題コース。竹花先輩スイマセン。

しかし、最近の学生は（こういう言葉が出てくるとすでに老人ではある）

酒を飲まなくなった。意欲もないし、まとまりもない。年々ひどくなる様な気がする。酒も弱くなり、自分で釣った魚を肴にして、子供の顔をみながら飲む酒が一番おいしいと思うようになったこの頃では面倒くさくなくていいのだが、物足りない。いまでも水産学科の同級生と飲む“酒”が一番おいしいし、安心する。

今日は、博士課程の論文審査の日であった。私が面倒をみた学生もパスした。こいつは例外でよく飲む。お祝いの酒でも飲みにいけますか。

2月5日記

（東京大学農学部助教授）



柳沼彌重氏・画



## 五十嵐冷蔵株式会社

(冷蔵・冷凍食品・低温運輸の総合エンタープライズ)

●収容能力13万8000トン

兼営のレストラン「ヤム・ヤム」TEL 3769-1155  
 (本社構内、駐車無料、年中無休)は、会員の  
 クラス会などにご利用頂いております。

〒108 東京都港区芝浦2-10-5

TEL 03 (3451)1111 (大代表)

FAX 03 (3451)1114

東京桑野会会員 専務取締役 吉田弘俊 (第52期)

## 事務局だより

### ■東京桑野会会員名簿について

またまたお詫びになりますが、今回の会報発送後の住所の状況、さらに、総会の後、各期幹事の皆様の協力をもって、今年度こそ名簿の作成をするつもりです。同期の友達の住所等の動向を事務局まで、電話、FAXでお知らせ下さい。

TEL - 3356-6677

FAX - 3356-6678

齊藤法律事務所内一小松まで

### ■安積高校野球部首都圏での春季遠征合宿のお知らせ。

平成5年4月4～6日に上京し、下記の日程で、対戦します。応援をお願いします。

○4/4(日)一所沢商業高校(同高校)

○4/5(月)一児玉高校、立教高校  
(立教高校グラウンド)

○4/6(火)一所沢商業高校(同高校)

□宿泊地「武蔵野センター」(民宿)

所沢市上山口、西武球場前

TEL - 0429-22-7460

### 事務局

〒160 新宿区新宿1-3-8

YKB 新宿御苑804

齊藤法律事務所内 東京桑野会事務局

齊藤・小松 TEL 3356-6677

FAX 3356-6678

## 編集後記

### ■節目の一つ第15号をお送りします。

表紙とカットは郡山市在住の画家佐藤昭一氏(56期)にお願いしました本

号のためのオリジナル作品です。ご提供に感謝します。

43期の曾根先輩からは昨年の定期総会当日に早々と原稿を頂きありがとうございました。30年にわたる東京桑野会の歴史を生き生きと伝えておられる石川照雄氏(64期)の続編を編集子の独断で中断しました。お詫びします。

渡邊龍一郎氏(81期)と根来尚史氏(91期)が広報部に新たに加わりました。第16号からは、より充実した会報と念願の母校卒業式前発行が「公約」出来そうです。100期以降の参加を強気に期待します。(67期 水口 禎)

■今回は、原稿不足の中で、宗像紀夫先輩(73期)には忙しい最中に原稿をいただき、感謝。また押し迫った頃に、池田先輩(58期)には、とにかく書いて下さいと厚かましいお願いをして、大変失礼をしました。感謝しています。反省として、編集会議をもう少し前に段取りよくという言う提案が、ありました(いつも会議の最後の頃にです)。次回から、編集に参加してくれる人はTELを下記へ下さい。

TEL - 3462-4161 FAX - 3462-4163

(株)櫻井計画工房内広報部(78期櫻井)

■正月2日、41期の父と開成山参拝、4日、スキーに行く。磐梯山にもリゾート法によりスキー場が沢山出来たが、国立公園の十分な設備を設置できない側面を感じた。開発は遊ぶ者に満足を与え、地元や資本に利益をもたらすが、環境も破壊する。バブル崩壊で計画見直し論が出たが、環境維持と開発による経済効果を考えるには好機であろう。故郷は美しいままであって欲しい。久々の編集作業、今年は大震災か

ら70年目である。(79期 大竹英雄)  
■昨年より広報部の一員として、会報の編集に参加している。何分慣れない校正の赤ペン入れ、根っからこまかい仕事はダメである。誤字・脱字等全然見つからず、アセっていると、大竹さん、村上さん、坂本さんの作業は神技とも思える程、さすがと感嘆した次第。早々に作業は終わって酒席となりました。水口さん、桜井さんのお話を聞きながら、小生夢の中に入っていったようです。(81期 渡邊龍一郎)

### ■造語を一つ。

「恐喝の櫻井」…タイムリミット寸前になって電話よこし、原稿執筆を強要すること。気の弱い者が脅迫に負けて原稿を書くことになる。…というわけで今回で3度目の原稿書きになりました。安積の同窓のことを書くべきなのでしょうが、大学の話になってしまい申し訳ございません。水産学科の同窓会は「紫水会」という名前がついています。安積の「紫の旗」に通ずるところがあるということでお許しください。(85期 村上昌弘)

■郡山へ帰るたびに感ずるのは、駅前の乱雑さです。バス乗り場、タクシー乗り場、信号機等の配置の悪さのために、非常に雑然として、印象を悪くしています。

発展している郡山の、そして母校安積高校への玄関口としては悲しいものがあります。そうお感じになっている会員の方も多数いらっしゃるのではないのでしょうか。郡山付近への遷都の可能性も考えられているとのこと、駅前の整備をぜひとも実行して欲しいと思います。(86期 坂本浩一)

あなたの生活まるごと運びます



●お問合せ・お申込は

TEL (0423)65-8100

◎一般引越

府中運送株式会社 代表 (0423)65-1476

府中市白糸台1-23-10 <新甲州街道白糸台1丁目交差点角>

遠藤征志郎 (72期)